

「明るい社会のために」

泗水小学校6年 上野 詩織

犯罪のない明るい社会を創るため、私たちにできることは何でしょうか。

私が考える明るい社会とは、一人一人が周りの人を思って行動する社会、みんなが笑顔で過ごすことができるふんいきがある社会だと思います。

そのようなふんいきを創るため、私たちが何をすればよいかを考える時、私は学校生活の中によくある風景を思い出します。

学校生活の中で、私は時々、泣いている子を見かけます。例えば、低学年の子が転んでけがをしている時です。そんな時はたいてい、「だいじょうぶ。どうしたの。」と、そばにいる高学年が声をかけます。「名前はなんというの。保健室に行こうか。」知らない子であったとしても、高学年が声をかけて保健室へ連れていきます。すると、転んでさっきまで泣いていた子も、ちょっと笑顔になります。きっと、けがの痛みがなくなったわけではないけれど、支えてくれる人の温かさに触れて笑顔になることができたのです。

それを見た私は、知らない人に対しても温かい声かけができるのは、かっこいいことだと思うようになりました。そこから、私は誰かに対しても、困っている人を助けたい、何かできることはないかと思いながら、今過ごしています。

このことは、犯罪がない明るい社会を目指す中で、大切なことではないでしょうか。

ほぼ毎日、強盗や殺人など、悲しい出来事が新聞やテレビで取り上げられています。私は社会が犯罪や非行だらけであるのを見ると、少しこわくなってきます。

私にとって安倍元総理の襲撃事件は衝撃でした。総理の周りには守る人もたくさんいただろうし、それでも総理を殺そうと考えるなんて思いもよらなかったからです。

犯罪も非行も同じです。社会や地域に悪いことをしようと思っている人がいることに悲しくなります。

なぜ、犯罪をしようと思う人がいるのでしょうか。私はニュースを見るたびに考えます。

学校内のトラブルも同じです。学校のものをこわしたり、わざと汚したりする人がいます。

でも、そのようなことをやってしまった人には、その人にしか分からない苦しみがあるんだと思います。

だから、その苦しみに気づくために、人と人との交流が大切なのではないでしょうか。学校では、交流の第一歩として「あいさつ」に取り組んでいます。あいさつのポイントやその意味をみんな考えています。

今、学校内で先生や友達に対してしているあいさつを地域にも広げていきたいです。小学校から地域へ、あいさつで心をつなげ、人を笑顔にさせる輪を広げられたらうれしいです。

温かな声かけとあいさつ。それこそが、小学生の私たちにできる、犯罪のない明るい社会を創るための活動だと思います。